



熊谷市 記者クラブ取材情報

令和 6年 6月27日発表
担当課: 商業観光課

タイトル

令和6年熊谷うちわ祭について

1. 日時 令和 6年 7月20日(土) ~ 7月22日(月)
2. 場所 熊谷市街地、お祭り広場ほか
3. 事業概要
八坂神社大祭「熊谷うちわ祭」は毎年7月20日から22日に開催される、江戸時代から続く八坂神社の祭礼です。“関東一の祇園”と称され、例年、3日間の開催中に大勢の観光客が訪れる、本市を代表するお祭りです。
新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和元年の通常開催を最後に、諸行事の自粛、規模縮小での開催となっておりましたが、令和6年の熊谷うちわ祭につきましては、コロナ禍前のスタイルに戻す形での実施を予定しています。
4. 特徴やPRポイント
本年(令和6年)のうちわ祭につきましては、20日の熊谷駅正面口での初叩合いをはじめ、21日、22日には国道17号を含めた市街地で交通規制を実施し、12台の山車・屋台が勇壮な熊谷囃子を響かせながら巡行するなど、コロナ禍前と同じ形での開催を予定しています。
魁としての年番にふさわしい形で、『継往開来』の精神のもと「熊谷うちわ祭」の醍醐味を味わっていただきますよう御案内いたします。
【主な実施概要】
 - ・ 7月20日(土)
渡御発興祭、渡御着興祭、初叩き合いなど
 - ・ 7月21日(日)
巡行祭など
 - ・ 7月22日(月)
行宮祭、曳っ合せ叩き合い、年番送りなど**【その他】**
 - ・ お祭り広場に行宮が設置され、神事が執り行われます。
5. その他
【主催者】
熊谷うちわ祭令和6年年番町 第壱本町区 大総代 萩原 直幸(はぎわら なおゆき)

※ 資料の有無(有) ・ 無) ※市HPの掲載(有) ・ 無)
担当者 産業振興部商業観光課 贅田、青木
連絡先 048-524-1111 (内線312)



[illegible][illegible]

筑波区
 山車
 製作人 山形 武人
 設計 山形 武人
 構造 山形 武人
 材料 山形 武人
 完成 山形 武人
 展示 山形 武人
 場所 山形 武人
 年代 山形 武人
 高さ 山形 武人
 長さ 山形 武人
 重さ 山形 武人
 価格 山形 武人
 備考 山形 武人

[illegible]

関東一の祇園 熊谷うちわ祭

うちわ祭は、当地に鎮座する八坂神社のご祭礼です。八坂神社は又禄年間（一五九二）に京都八坂神社を勧請し、現在鎌倉町にある及岩神社に合祀されたものであります。

熊谷の夏祭りの起源を示す最初の記録は、江戸中期の寛延三年（一七五〇）に、当時各寺社ごとに行っていた祭りを町内統一の祭りとする上申書でありました。町役人の許可により、以来町内全体の祭りとなり、現在の祭りの形態が作られました。

その頃の祭事係は、祭りの期間一躍町役人と同じ力を持ち、祭りのすべてを取り仕切る祭番となり、形態とともに権限も脈々と受け継がれております。

天保年間（一八三〇）は祭りの中興の時代といわれ、重さ二〇〇
 両の神輿が新調され、祭りの原点ともいえる全町合同の神輿渡御が
 始まりました。

またこの頃より、町内各店が祭りの期間中、買物客に赤飯をふるまった事から、「熊谷の赤飯ふるまい」として評判となり、祭りの名物となりました。

「うちわ祭」の名称の由来は、夏の祭りで配布されていたうちわを「うちわ祭の名刺」として、明治三十五年頃より、料亭・泉州楼の主人がうちわを配ることに始まり、次第に飛び交うことと知り継がれています。東京での修行中に、うちわ文化が飛び交うことで知られていた「天王寺祭」からの影響を受けた主人が老舗「伊場仙」から洪うちわを買って、熊谷の祭りに配り始めたといわれています。このうちわの登場が好評を博し、そのうちわを出したため、買い物は「熊谷うちわ祭の日」といわれるようになりました。

合うちわ祭の日といわれるようになりました。

時を同じくして絹産業などの発展などにより町はにぎわい、各町競って山車・屋台を購入し、神輿渡御と山車・屋台巡行による現在のうちわ祭の原型はこの時に作られ、今日まで続いております。

このように「町民一体として始まった伝統」江戸からの祭文化の継承「自ら熱意で祭をつくり上げてきた熊谷人の心意気」が融合し、つや関東一の祇園として発展しております。



繼往開來

大總代萩原直幸

令和二年から蔓延したコロナ禍は二年間の神事のみ催行、その後の二年間はコンパクト化縮小化された形で催行がなされてきました。この四年の年番町の皆様方の並々ならぬご苦勞ご努力には改めて感謝と敬意を申し上げます。

このような状況下、令和六年・年番町第壹本町区は魁を担っている町区、この熊谷町の町祭をどのように企画運営していくのか、熊谷市民注目を集めていくと自覚しております。

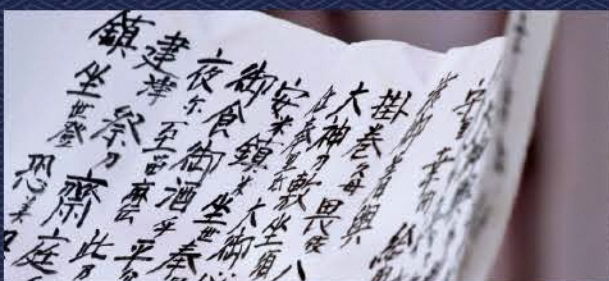
こそ、本年の方針として本年はコロナ禍前の熊谷うらわ祭のスタイルを戻すことに前提に企画運営させて頂きます。熊谷の活力の源とされている熊谷うらわ祭を四年間このプランニングをねのけて完全復活させていく決意のもと第廿五町祭区一九九一年となって邁進したいと思ひます。

しかし、それは五年前年の形をそのまま復活させるものであつてはならぬと思ひます。魁として五年前の年番に相应しい形で完全復活を目指すこととして考へておきます。五年前年の形での熊谷うらわ祭には数々の要改良点があり、思ひます。これらをつつ丁寧に解決し、最低で今後年間無事故で思ひます。これらをつつ丁寧に解決し、最低で今後年間無事故で思ひます。これらをつつ丁寧に解決し、最低で今後年間無事故で思ひます。

の精神のもと下記の重点項目を解決し、皆様方とともに明るく楽しい熊谷を実現いたします。

【重点事項】
熱中症予防と対策の徹底

持続可能なうちわ祭りの運営方法の構築



7月22日(月)

行宮祭 山車・屋台の巡行や勇壮な囃子のような華やかさはないが、祭りの本質で荘厳な神事の一つです。行宮に宮司、役員が集まり、神官の浄衣をまとった大総代が御霊の移された神輿を前に自ら祝詞を奏上、玉串を奉奠し神の加護を祈願します。

曳っ合せ叩き合い 午後六時より国道十七号線は交通規制となり、各所で祭りの終わりを惜しむかのように多くの叩き合いが行われます。徐々に十二基の山車・屋台が最後の叩き合いの地であるお祭り広場周辺に集まっています。市役所入口交差点で扇形に整列し叩き合いを行った後、お祭り広場の四方に移動し、「年番送り」と曳っ合せ叩き合いを待ちます。

年番送り お祭り広場の四方を山車・屋台が囲み、多くの観客に見守られながら年番町、迎え年番町がステーションに上がります。

還御祭 還御祭は、発興祭と着興祭の二つの神事で構成され、行宮から本宮まで神輿をおかえしするための巡幸です。日付も変わる深夜、再び関係者が行宮に集まり「発興祭」が執り行われ、午前〇時、熊谷祇園会員約三百人によって、神輿が本宮まで担がれます。

初叩き合い 本宮にて最後の神事「着興祭」が執り行われ、三日間におよぶ祭りのすべての祭礼行事が終了します。



7月21日(日)

巡行祭 午後一時より国道十七号線は、銀座から石原まで交通規制が敷かれ歩行者天国となり、山車・屋台は国道十七号線を西に巡行します。最西端に本石区・石原区の屋台が待機しており、十ヶ町を迎えます。本石区・石原区の二町も合流し十二ヶ町で御宮参りのため行宮へ向かいます。その後、国道十七号線を東へ巡行します。

清祓の儀 巡行祭の始めに、巡行祭の無事安全なる執行を祈り、町内全域・巡行路・祭奉仕者・関係者、来場者などすべてをお祓いし清らかにする儀式です。

叩き合い 夕暮れになり、停留していた全町の山車・屋台が動き始めます。国道十七号線各所で、次々と叩き合いを繰り広げながら山車・屋台が合流し、八木橋百貨店前では全町揃って扇形となり叩き合いを行います。



7月20日(土)

渡御祭 渡御祭は、発興祭・途上奉幣祭・着興祭の三つの神事で構成され、愛宕八坂神社(本宮)から旧市街地八ヶ町を通り、途中の東西南北四ヶ所地域を浄め、お祭り広場に設置された行宮まで神輿が巡幸します。

初叩き合い 全町の山車・屋台は「初叩き合い」の行われる熊谷駅を目指し、星川通りに集結します。夕暮れ、提灯に火が灯された山車・屋台の前では各町の旗が振られ、年番町を先頭に星川通りから駅前通りを経由し、北口駅前広場へと移動します。熊谷駅を背に全町が横一列に整列し、勇壮なお囃子とともに初叩き合いが始まります。

